

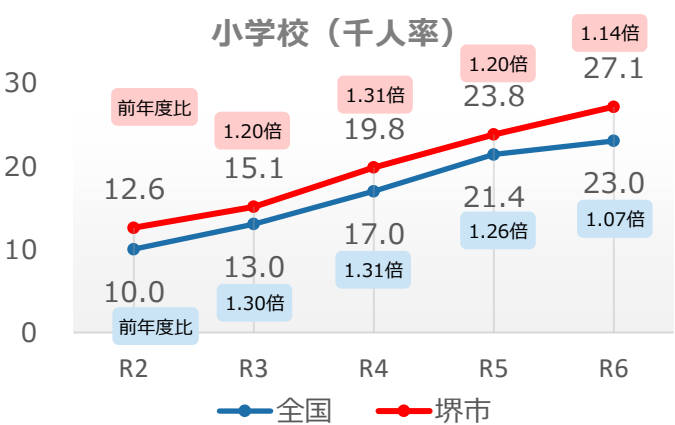
不登校対策

不登校の現状

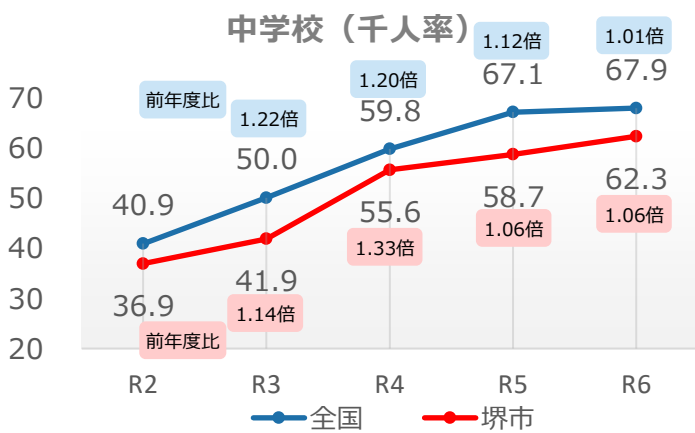
○小中学校における不登校児童生徒数の推移（全国・堺市）

（文部科学省）児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果より

小学校			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	全国 【国・公・私】	在籍数	6,333,716	6,262,256	6,196,688	6,100,280	5,994,493
		不登校数	63,350	81,498	105,112	130,370	137,704
		全国（千人率）	10.0	13.0	17.0	21.4	23.0
	堺市 【公】	在籍数	42,693	41,844	40,926	40,122	39,074
		不登校数	537	632	811	954	1,058
		堺市（千人率）	12.6	15.1	19.8	23.8	27.1



中学校	※堺市は夜間学級を除く		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	全国 【国・公・私】	在籍数	3,244,958	3,266,896	3,245,395	3,220,963	3,186,476
		不登校数	132,777	163,442	193,936	216,112	216,266
		全国（千人率）	40.9	50.0	59.8	67.1	67.9
	堺市 【公】	在籍数	20,813	20,977	20,583	20,393	19,921
		不登校数	768	878	1,144	1,197	1,241
		堺市（千人率）	36.9	41.9	55.6	58.7	62.3



増加し続けている不登校児童生徒に対する支援が急務

不登校の定義と支援の目標

○不登校の定義

何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しない、あるいはしたくともできない状況にあるため年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの

○不登校支援の目標

将来、児童生徒が精神的にも経済的にも自立し、豊かな人生を送れるような、社会的自立^(※)を果たすこと

※適切に他者に依存したり、自らが必要な支援を求めたりしながら、社会の中で自己実現していくことをいう

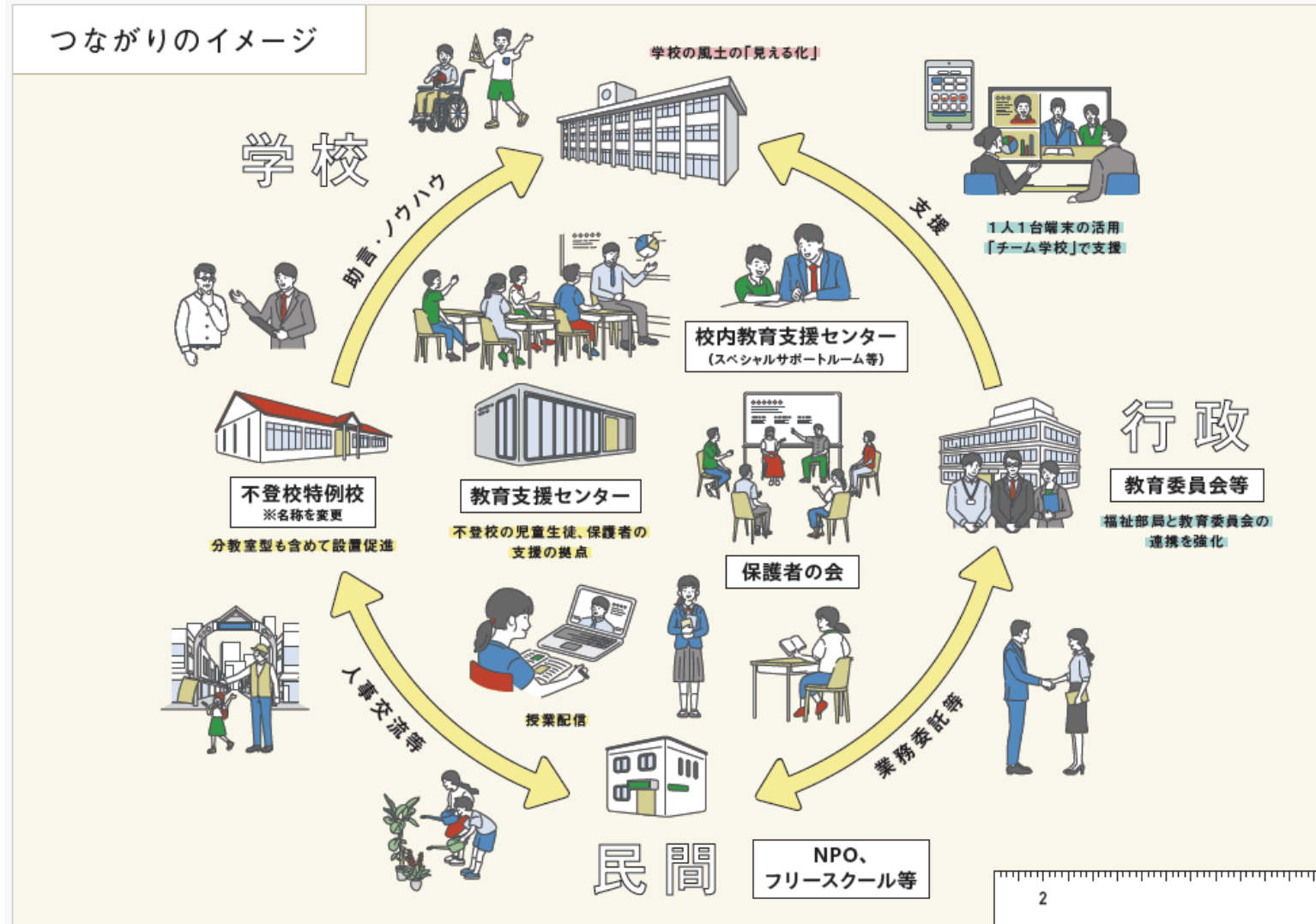
- 不登校児童生徒への支援においては、学校に登校するという結果のみを目標とするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的自立を目指せるように支援を行うことが求められる。
- 支援の第一歩は、将来の社会的自立に向けて、現在の生活の中で、「傷ついた自己肯定感を回復する」、「コミュニケーション力やソーシャルスキルを身に付ける」、「人に上手にSOSを出せる」ようになることを身近で支えること。
- その上で、**社会的自立に至る多様な過程を個々の状況に応じてたどることができるように支援すること。**

(文部科学省) 生徒指導提要より

多岐にわたる要因、個に応じた自立に向けた幅の広い支援が必要

(参考) 文部科学省「COCOLOプラン」

○「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策について」 令和5年3月 文部科学省



本市の不登校支援の現状

○社会的自立に向けた本市の不登校支援一覧

学校内	魅力ある学校・学級	安全・安心な居場所である学校・学級 多様性が認められ、こどもが安心して自分を表現できる学級を形成 教職員がそれぞれの力を発揮し、「チーム力」のある学校組織の構築
	相談支援	心と福祉の専門家による相談 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを配置 面談や授業見学等を通じた児童生徒・保護者の思いに寄り添った支援
	教室に入りづらい 児童生徒への支援	校内教育支援教室（スペシャルサポートルーム「SSR」） 自身の学級以外で過ごしたいと思う児童生徒が心地よく過ごすことができる「SSR」の設置 今年度はSSR支援員を試行的に6学校群（中学校区）に配置、学びの多様化学校の研究
学校外	各学校の取組	担任等による支援、ICTを活用した学習支援や相談 担任等の家庭訪問や学習課題のポスティング ICTを活用した学習課題の提示、授業配信、教員やスクールカウンセラーによるオンライン面談
	行政の運営	校外教育支援教室（スプリングポート等）・区のこどもの居場所 校外教育支援教室では、今年度より対象児童を拡充、メタバースの研究 各区役所において、こどもが安心して過ごせる居場所の運営
	民間の運営	フリースクール等民間施設 各施設による特色ある運営 教育委員会と連携した会議体の設置、保護者向け情報交換会の開催
	相談支援	各種相談窓口 市において様々な相談的口を設置 ○生徒指導課 ○ソフィア・ふれあい教育相談 ○堺市LINE相談 ○こども電話教育相談 ○いじめ不登校対策支援室 ○各区役所 ○ユースサポートセンター

本市の不登校支援の現状

○令和8年度 校内教育支援教室（スペシャルサポートルーム「SSR」）支援員配置のモデル実施スタート

学校内	魅力ある学校・学級	安全・安心な居場所である学校・学級 多様性が認められ、こどもが安心して自分を表現できる学級を形成 教職員がそれぞれの力を発揮し、「チーム力」のある学校組織の構築
	相談支援	心と福祉の専門家による相談 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを配置 面談や授業見学等を通じた児童生徒・保護者の思いに寄り添った支援
	教室に入りづらい児童生徒への支援	校内教育支援教室（スペシャルサポートルーム「SSR」） 自身の学級以外で過ごしたいと思う児童生徒が心地よく過ごすことができる「SSR」の設置 今年度はSSR支援員を試行的に6学校群（中学校区）に配置、学びの多様化学校の研究

学校外	各学校の取組	担任等による支援、ICTを活用した学習支援や相談 担任等の家庭訪問や学習課題のポスティング ICTを活用した学習課題の提示、授業配信、教員やスクールカウンセラーによるオンライン面談
	行政の運営	校外教育支援教室（スプリングポート等）・区のこどもの居場所 校外教育支援教室では、今年度より対象児童を拡充、メタバースの研究 各区役所において、こどもが安心して過ごせる居場所の運営
	民間の運営	フリースクール等民間施設 各施設による特色ある運営 教育委員会と連携した会議体の設置、保護者向け情報交換会の開催
	相談支援	各種相談窓口 市において様々な相談的口を設置 ○生徒指導課 ○ソフィア・ふれあい教育相談 ○堺市LINE相談 ○こども電話教育相談 ○いじめ不登校対策支援室 ○各区役所 ○ユースサポートセンター

本市の不登校支援の現状

○令和8年度 校外教育支援教室（スプリングポート等）の対象学年の拡充スタート（小1～小3 可）

学校内	魅力ある学校・学級	安全・安心な居場所である学校・学級 多様性が認められ、こどもが安心して自分を表現できる学級を形成 教職員がそれぞれの力を発揮し、「チーム力」のある学校組織の構築
	相談支援	心と福祉の専門家による相談 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを配置 面談や授業見学等を通じた児童生徒・保護者の思いに寄り添った支援
	教室に入りづらい 児童生徒への支援	校内教育支援教室（スペシャルサポートルーム「SSR」） 自身の学級以外で過ごしたいと思う児童生徒が心地よく過ごすことができる「SSR」の設置 今年度はSSR支援員を試行的に6学校群（中学校区）に配置、学びの多様化学校の研究

学校外	各学校の取組	担任等による支援、ICTを活用した学習支援や相談 担任等の家庭訪問や学習課題のポスティング ICTを活用した学習課題の提示、授業配信、教員やスクールカウンセラーによるオンライン面談
	行政の運営	校外教育支援教室（スプリングポート等）・区のこどもの居場所 校外教育支援教室では、今年度より対象児童を拡充、メタバースの研究 各区役所において、こどもが安心して過ごせる居場所の運営
	民間の運営	フリースクール等民間施設 各施設による特色ある運営 教育委員会と連携した会議体の設置、保護者向け情報交換会の開催
	相談支援	各種相談窓口 市において様々な相談的口を設置 ○生徒指導課 ○ソフィア・ふれあい教育相談 ○堺市LINE相談 ○こども電話教育相談 ○いじめ不登校対策支援室 ○各区役所 ○ユースサポートセンター

SSR支援員配置校の状況

○配置の目的

自身のクラス以外で過ごしたいと思う児童生徒を対象に、学びたい時に学べる場を確保し、学校内で安心して学ぶことができる居場所を提供するため配置

○令和8年度の配置状況（各学校群に1名配置）

※R8.6付 学校群全体の合計の数

区	学校群	配置方法	登録者数※
堺区	三国丘中・三国丘小・榎小	巡回型	10人
中区	深井中央中・深井小・深井西小	巡回型	1人
西区	福泉中・福泉小・福泉上小・福泉東小	巡回型	10人
南区	宮山台中・宮山台小・竹城台小・竹城台東小	巡回型	1人
南区	赤坂台中・赤坂台小・新檜尾台小	巡回型	4人
北区	五箇荘中・五箇荘小・五箇荘東小・新浅香山小	拠点型	8人

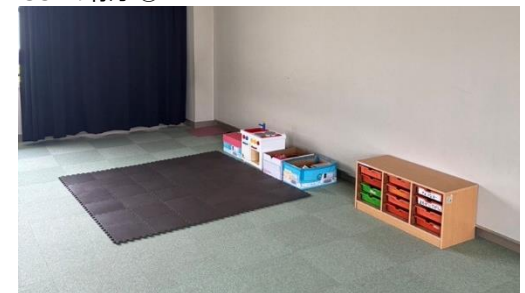
【巡回型】

SSR支援員が、学校群の小中学校を巡回して、支援を行う。

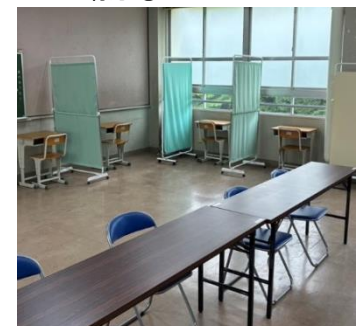
【拠点型】

SSR支援員が、中学校など特定の学校を拠点として支援を行う。

SSRの様子①



SSRの様子②



○現時点の評価

- これまでは、教員が担当授業外の空き時間等により複数で対応していたが、支援員の配置により、児童生徒への継続的な関わりが可能となった。支援体制が安定することで、登校しづらさを感じている児童生徒の居場所のひとつとなっている。

○今後に向けて

- 支援員と教員の校内連携体制、校内外研修の在り方について検証する。